

# 「困った」子？ いいえ、 『困っている』子！です。

～よき理解者・支援者となるために～



子どもたちにはそれぞれ個性があり、よいところもそれぞれ違います。

環境によっては「困った」行動をとる場合もあります。

でも、それはいったいだれが困っているのでしょうか。

一番困っているのは子どもたち自身です。

みなさんと一緒に子どもたちを理解し、手を携えて支援していきましょう。

## 環境が整えば、 自分の力で成長できる！

人はだれでも、外部からの働きかけを身体のさまざまな器官（目や耳等）で受け止め、それを適切に処理することによって環境に適応し、成長していく能力を持っています。

たとえば乳幼児期の子どもは、愛情にあふれた大人との身体接触によって安心感と信頼感を得ます。十分な安心感をベースにし、好奇心を発揮して積極的に行動するようになり、3歳頃までには自分の意思で行動するようになります。

学童期の子どもは大人の行動を学び始め、好奇心を持って何にでもチャレンジしようとします。そのチャレンジに対して「ここができたよね。」とか「ここをこうすると、もっとうまくできるよ」などの大人や周囲の子どもからの肯定的なサポートがあると、子どもは達成感を得て心身が発達していきます。

思春期になると急速な心身の成長に伴い、「周りからどう見られているか」とか「自分は人より劣っていないか」など周囲の人たちと比べて自分を評価するようになります。この時、周囲の人からあまり評価されていないと思うと、自分を否定したり、他人への不信感をつのらせて社会的に適切でない行動をとってしまうことがあります。反対に周囲の人の肯定的な理解や反応があると、自分自身を認めて自分の力で何かを成し遂げられるようになり、集団や社会の中で自分の役割を果たせるようになっていきます（自立）。したがって、家庭や学校などで「こうしなさい」ではなく「私はこう思うよ。こう感じているよ」という周囲の大人からの肯定的なメッセージを送ることが大切です。

このように周囲の環境が整っていけば、子どもは新たな学びにチャレンジして、さまざまな課題を解決し、自分の力で発達していくことができるのです。

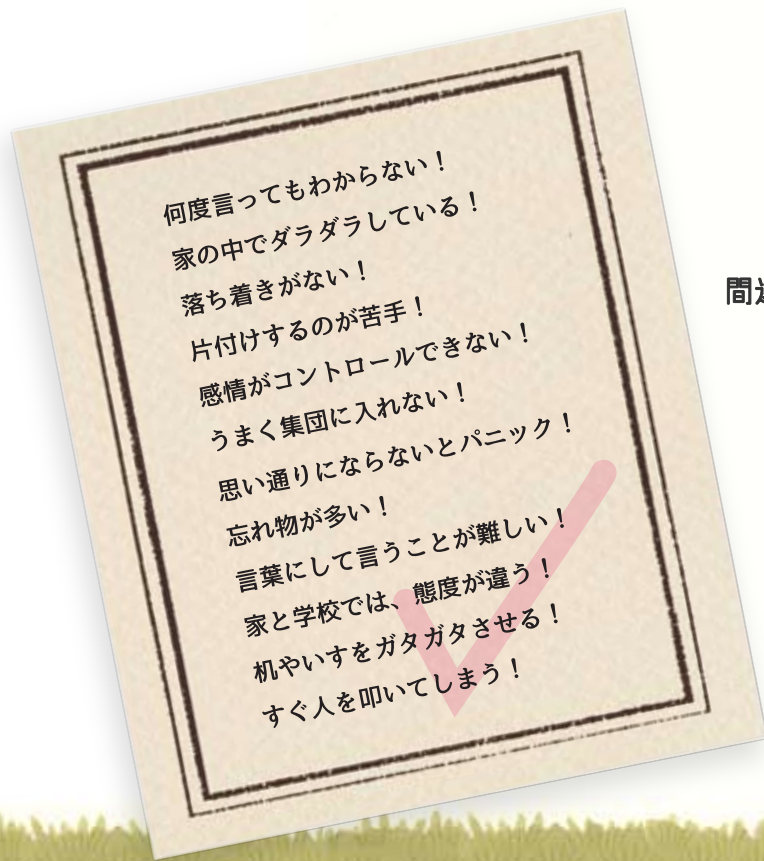
## 『オンリーワン』が すばらしい！

しかし、人が社会の中で適切に生きていくために必要な能力（人と関わる力、学んでいく力や意欲・忍耐力など）のすべてが均等に発達することはなく、その発達の仕方や程度は個人によって異なります（発達の凸凹）。学力面で得意・不得意があるように、人と関わる力やコミュニケーション力なども、人によって差があるのは当然のことです。また、発達の凸凹によって起こる子どもたちのさまざまな行動が、周囲の人々から十分理解され受け入れられるかということ、残念ながら必ずしもそうではありません。人が自分と違う他者を理解するには、肯定的に理解しようとする態度や努力が必要になります。そういう態度や努力を続けることは、生活を共にする家族の間でも難しい時があります。ましてや、保育園や幼稚園、学校などのある意味では偶然に集まった集団ではなおさらのことです。

お互いの発達の凸凹（個性）の違いを理解し、認めあえるような関係を家庭や学校などで意識的につくっていかなければ、子どもは孤立化し、自分自身を否定して、さまざまな適切でない行動を起こしてしまうこともあるのです。子どもたちが「何に困っているのか」を、みなさんと一緒に考えていきましょう。



# こんなことが 気になっていませんか？



わがママ？  
甘やかしすぎ？  
育て方が  
間違っているのかな？



大人の見方や対応によって、  
子どもが変わります。

「困った子」と  
思ってしまうと…

困った子！  
どうして？！

つい叱ってしまう！  
育て方が間違っていた？



「困っている子」と  
考えると…

ここまでできたね。  
えらい！

どこで困っているのだろう？  
少し対応を変えてみよう！



# 子どもの行動の、思いがけない理由！

たとえば、子どもが「なかなか片付けができない」という場合、どんな対応をとりますか。「叱る」「注意する」という場合が多いのではないのでしょうか。それで行動がよくなればいいのですが、なかなか改善しない場合は「さらに叱る」ということになりがちです。そして、「なんでこの子は言うことが聞けないのだろう！」と思うことはないでしょうか。人の行動には理由があります。本人と周囲の人たちとのお互いの関係が適切であれば行動は落ち着いてきますし、逆に不適切な時はさまざまな課題が現れてしまいます。周囲の人たちの関わり方によって本人の行動が変わり、また逆に、本人の行動によって周囲の人たちの関わり方も変化していきます。お互いに働きかけあい、影響しあっているのです。

## 「きちんと…」って、何をどうやればいいの？



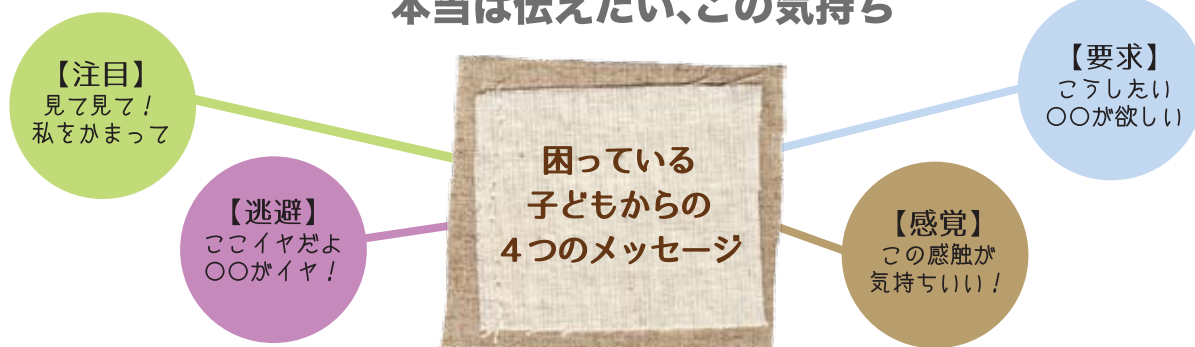
あいまいな言葉かけ

## 具体的に、目に見える形で教えてあげよう！



明確な言葉かけ

## 本当は伝えたい、この気持ち



上の図のように、『困っている子』はこの4つのメッセージを上手に伝えられないのです。片付けの例だと、「片付けの仕方がわからない」ために、片付けられないかもしれません。また、あいまいな言葉かけ（ちゃんと、しっかりと、など）のために、何を言いたいのが理解できないのかもしれません。さらに、自分のことをかまってほしいために、人から注目されるような不適切な行動をとる場合もあるのです。子どもたちの「困った行動」の背景を考えてみましょう。

# 心の中にある、この「気持ち」… わかって欲しい！

## 片付けが苦手な子は…

どうやって片付けたらいいのかわからないんだ。  
それに、忘れ物をしないようにしようとしても、うまくいかないんだ。



何をどこに片付けるか、紙に書くなど分かりやすくしますね。また、学校に予備を置いておくと、忘れたときも安心ですね。



これで安心！



## すぐに手を出してしまう子は…



嫌なことを言われたりすると、すぐに手が出ちゃうんだ。それに、どんな言葉を言ってはいけないのかわからないよ。

人に言うてはいけない言葉を紙に書くので、みんなで守りましょう。また、注意するときは、お互いに穏やかに話すようにしましょう。



嫌なことを言われたときは、先生や友達に話す約束だよ。



## 感情がコントロールできない子は…

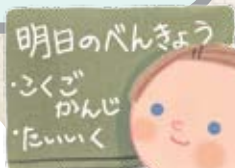


急に予定が変わると、ものすごく不安になっちゃうんだ。それに、すぐに気持ちを切り替えられないんだ。

一日の予定が分かるように、紙などに書いておきますね。また、予定が変更になった場合は、前もって知らせますね。



体育の授業は明日行きますよ。



## 言葉でうまく表現できない子は…

自分の気持ちや伝えたいことをどう言っているかわからないよ。



絵カード等を使って、徐々に伝えたいことを伝えられるようにしましょう。



ジュースが欲しいのね！



# 見方を変えると…

「困る」子!

「困っている」子!

甘やかし!

怠けている!

わがままで!

何度言ったらわかるんだ!



次にやることが分かっていないかも!

言っていることが理解できていないかも!

気持ちのコントロールが苦手!

## みんなで認めて支えて!

安心・安定

自信・意欲

〇〇できたね!すごい!

援助要求ができる



こういう時は  
〇〇するといいいよ!

自己肯定感

ほめて、認めて伸ばそう!

子育てってたいへんで、孤独です。子どもをほめるような心のゆとりが持てないですよね。でも、ほめ方を工夫すると、子どもの行動が変わってきますよ。

ほめるポイントは…

子どもの行動のうち望ましい行動をとった時に、それがどんなに小さなことでも注目を与え、ほめることです。

初めての子育て

年子がいて手が一杯!

やんちゃすぎてこまっちゃう!

忙しくて喜びを感じられない!

どんな行動をほめられたかわかるように、『すぐに』ほめましょう!

『〇〇してるね』というように具体的にほめましょう!

あまり大きなくりで見ないで、小さな段階を見てほめましょう!

(例) すぐに…

- × 『昨日はきれいに片づけたね』
- 『今の片付け、上手だね!』

(例) どこをほめてるの?

- × 『全体的にはできてるね』
- 『この計算よくできたね』

(例) 小さな目標を相談!

- × 『今度は100点だね』
- 『次は分数ができるようにしようか。どう思う?』



## 子育てヒント集

「できて当たり前」とおもっていることに、実は大きくつまづいていることがあります。子どもによって、言葉の受けとめ方やものとのらえ方、感じ方はさまざまです。

ふだんの子どもへの対応で、ちょっとうまくいかないことがあった時には、対応を少し変えてみるとうまくいく場合がありますよ。

### × あいまいな表現

「ちゃんと片付けなさい」

### ○ 具体的な表現

「おもちゃはこの箱にしまおうね」

### × 言葉だけで伝える

「ゲームは80分って言ったでしょ！」

### ○ いろいろな伝え方

「キッチンタイマーが鳴ったよ。  
終わりの時間だね」

### × 長い説明や指示を早口で

「学校から帰ったら、手を洗ってうがいして  
連絡帳をお母さんに見せて、  
宿題をやったらおやつにしようね」

### ○ 短い言葉で、ゆっくりと

「お帰り。手を洗ってうがいしようね。」

### × 失敗を問い詰める

「今日はどんな失敗したの？  
先生に怒られたの？何が悪かったの？  
どうすればいいと思ってるの？…」

### ○ 子どもを認める

「今日は残念だったね。こうやろうとしても  
うまくいかない時ってあるよね。  
お母さんに言ってくれて嬉しかったよ。」

### × 否定的な対応

「あなたはいつも友達を叩いて、  
だめじゃないか！人に迷惑をかけることは  
やめなさい！」

### ○ よさをとらえる

「本当は一緒に遊びたかったんだね。  
今度は一緒に遊ぼうって言ってみようね。」

### × 他の子どもと比べる

「算数は〇〇くんには負けてるし、  
国語は△△さんには負けてるし、  
体育は××くんには負けてるよね。  
お母さんの子どもの時はそうじゃなかったよ」

### ○ 自分の子どもの成長を見る

「2年生の時と比べると、  
算数は計算ができるようになったね。  
国語も漢字ができるようになったね。  
この調子だよ！」





## どうしていいかわからない時は 主な相談機関

### \*市内の相談機関

不登校や学級不適應などの教育相談全般		
教育研究所	逗子市桜山 5-20-29	電話：046-872-2898・9498
就学前の子どもの発達相談・ことばや発音についての相談		
療育相談室	逗子市桜山 5-32-1 福祉会館内	電話：046-872-2523
子育ての心配や不安等の相談		
子ども相談室	市役所本庁舎 1 階子育て支援課	電話：046-871-8801
子育て支援センター	逗子市桜山 1-5-42	電話：046-871-5001

### \*市外の相談機関

18歳未満の子ども相談全般		
鎌倉三浦地域児童相談所	横須賀市日の出町 1-4-7	電話：046-828-7050

平成 26 年 3 月 発行

発行・編集：神奈川県逗子市教育委員会・福祉部

監修：星山 麻木 明星大学教育学部教授 / こども家族早期発達支援学会会長

お問合せ先：逗子市教育研究所（青少年会館 3 階）TEL：046-872-2898・9498

イラストレーション：岡本 典子

デザイン：こだいら しょうこ (OfficeFrogs)

※ 本冊子の文章・イラストなどあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。